

アメリカ滞在記⑦

テキサス州は面白い

霧野萬地郎

▼テキサス州はいくつもの顔を持った州だと思う。面積ではアラスカ州に次いで第二位で、米国本土の地図では全体の重心の様に中央下部にしっかりと位置している。

テキサスには「シックス・フラッグス・オーバー・テキサス」という言葉がある。この土地で主権を持ったことのある6つの国を表現する時に用いるスローガン。6つの国とは古い順にスペイン、フランス、メキシコ、テキサス共和国と現在のアメリカ合衆国、および南北戦争中のアメリカ連合国である。この州の愛称は「一つ星の州」だ。過去の主権の変遷を越えて今は一つとなって進むと云う意味だろう。

州都はオースティンだが、個性あふれる大都会、ダラス、ヒューストン、サンアントニオ、エルパソなどもあり、州としての人口は加州に次いで多い。

仕事でダラスへは度々尋ねた。カーナビの

無い時代、空港でレンタカーを借りて地図を見ながら目的地まで車を転がした。広大な平原なので特に迷う事や、車線も広く事故につながるような危険も感じなかった。仕事が終わり、ダラスの仲間たちと食事となれば、いかにも西部らしい野趣豊かな店へ案内される事が多い。名前は忘れたが、ある百人以上入れるステーキハウスでは客は荒削りな丸太の横椅子に座らされる。そこで、ネクタイなど締めて入れば、カウガールがベルを鳴らしながら、その客のネクタイを切り落とし、見せしめに切片を丸太柱にピン止めされる。そんな余興に加えて梁に結ばれたブランコを漕いでカウガールが客の注目を浴びている。肝心の炭焼きステーキはポンド(450グラム)、そして、味は上々だった。

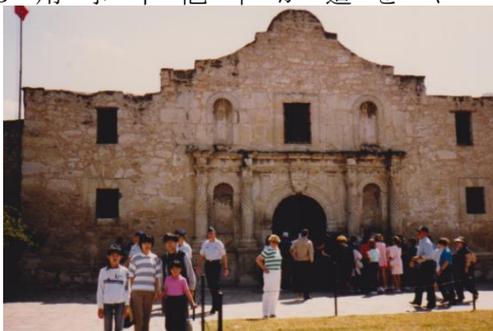
ロデオ会場に付属するレストランに案内された事もある。食事しながら暴れ牛や馬から振り落とされるカウボーイを観覧するのだ。そこで「マウンテン・オイスター」なる珍品が出て、テキサス人に大いに勧められた。後で牛の牽丸のフライと種明かしされたが、結構な味でビールによくあった。

投げ縄で牛を捌める皮ジャケツ

ロデオ囃すカウボーイ達息白し

▼クリスマス休暇を利用して家族共々で航空会社のマイレージを使って、サンアントニオからアラモの砦を訪ねた。当初は十九世紀初頭にスペイン

の司教によって、先住民のキリスト教改宗を目的として伝道所だった。しかし十八世紀後半にこの伝道は他所へ移され、十九世紀には軍事要塞として使用された。183



アラモの砦にて

5年のメキシコ合衆国から分離独立を図ったテキサス独立派とメキシコ軍との戦争で、あの壮絶な「アラモの戦い」の砦そのものな

のだ。数千人のメキシコ攻城軍に対して、二百人程のテキサス軍の防衛兵はこの砦に立てこもり必死の抵抗を試みが、全滅した。その中の12人の志願兵の一人としてあのデイヴィー・クロケットもいた。ここでの壮絶な敗戦は、「アラモを忘れるな」として、その後のテキサス軍全体の戦意高揚の精神的支柱となり、最後はメキシコ軍に勝利し、テキサス共和国として独立を果たした。

この戦いは奴隷制度を廃止したメキシコ政府に反対が原因だった。テキサス共和国の独立後は黒人奴隷制度が復活した。

1846年にテキサスはアメリカ合衆国の28番目の州として併合された。これに反対したメキシコがアメリカに宣戦し米墨戦争が起り、1868年アメリカ合衆国が勝利した。この戦争によってメキシコは領土の半分を失い、アメリカ合衆国は現カリフォルニア州、アリゾナ州などの南西部をメキシコから得た。1861年の南北戦争ではテキサスは南軍のアメリカ連合国に属し、敗戦後の1870年に合衆国への復帰が認められた。ジョンウエイン主演の映画「アラモ」の大

ヒットもあり人気の観光地となった。教会風な遺跡の内部には、伝道所から砦となった経緯や、戦闘の資料などが展示されている。

冬晴れのアラモに靡くローンスター

アラモ観光

を終えてサンアントニオの町を散策した。冬とは言えシカゴに比べて温かくとても気分が良い。市内には人気が高いリバー・ウォークもあり春の様な水辺を楽しむ観光客が溢れていた。

そこから100マイルほど離れた州都オースティンへ向かい、国家歴史登録財に登録されたテキサス州会議事堂を見学した。このテキ



サンアントニオのリヴァー・ウォーク

サス州会議事堂はワシントンD.C.のアメリカ合衆国会議事堂にこそ及ばないものの、全米50州の州会議事堂の中では最大の建物である。広々とした大理石の広いホルルの床には「シックス・フラッグス・オーバー・テキサス」の六つの旗がモザイクされていた。

▼テキサス州には他にもヒューストンの宇宙関連施設、西端にはメキシコ国境に沿ってエルパソがあり、この州の多様性を強く感ぜざるを得ない。

ダラスの中心地では、あのケネディー大統領がパレード中に狙撃された。その通りに立てば、オズワルドが潜んでいたと云われる建物も眺められ、あの生々しい瞬間の映像が改めて身近に思われた。

米国の歴史の本流からは些か離れていたこの州だったが、20世紀後半になってブッシュ親子などテキサス出身の大統領を輩出した。いささか荒っぽいこの州の底力はなかなか魅力的だ。

あの時も歓呼のパレード冬日和

続く